

会派広報広聴活動報告書(研修等)

大崎市議会 政務活動概要報告書
令和2年1月22日 提出

1. 活動概要

会派名	新生会
会員名	氏家善男、後藤錦信、只野直悦、木村和彦
活動項目	国土交通省及び厚生労働省との意見交換 NTTドコモ本社において5Gの今後についての研修

2. 活動内容

摘要	<p>令和2年1月16日 衆議院第2議員会館 国土交通省</p> <ol style="list-style-type: none">1 防災調整池、遊水地整備について2 国土交通省による排水路整備、排水機場整備について3 河道掘削の予算について4 スーパー堤防整備予算確保について <p>「社会資本整備審議会河川部会」 気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会(第1回)資料により説明</p> <ol style="list-style-type: none">1 気候変動の今後の予測、社会動向について2 台風19号被害について説明3 対応すべき課題について <p>河道掘削・河床木の工事が最優先の認識 単にハードの整備では、時間がかかりすぎて現状の対応が間に合わない。 今ある施設の有効利用(ダムの利用)農地の活用、遊水地の活用策を検討中</p> <p>質疑・応答 質問 大和町の現状で、遊水地整備を進めるとあるが、今回の整備によって軽減される割合は 回答 遊水地の整備、吉田川の稼働掘削については、大規模な掘削になる。結果今回の雨量に十分に対応できる 遊水地の拡大については、拡大・新ダムに建設について、議論が必要</p> <p>質問 ダムの事前放流は可能か 回答 ダムの構造的に人工的に放流する機能がない。今後今の施設では不可能なので、施設の改良が必要。 遊水地については、国土交通省のみでは困難、農水省と協議が必要。排水機場の再稼働と水門の閉鎖について、今後連携の検討が必要</p> <p>質問 吉田川の稼働掘削の必要、対応に 回答 地域の要望も出されている。吉田川の水位を下げる場合、稼働掘削する場合の土の利用を考え、土盛りに使う方法もあるのでは。地域の要望をまとめる必要</p> <p>質問 健管轄のダムの有効利用は 回答 県に要望してほしい。国から補助の検討を図る</p>
----	--

令和2年1月16日 衆議院第2議員会館

厚生労働省

田川地域医療専門官

地域医療施設の構想の推進について

- 1 日本人口ピラミッドの変化
2016年、2025年、2065年 人口構造の変化について
- 2 地域医療体制の構造について
医療施設の最適配置
医師、医療従事者の働き方改革
実効性のある医師偏在対策
- 3 病床機能ごとの病床数の推移
2015年度病床機能報告
地域医療を守るために 検証は必要

質問

在宅医療体制をどう考える

回答

在宅を行う医師が不足している。訪問看護婦等女性をしている
在宅医療のすそ野を広げていく(予算・介護)

質問

在宅医療専門病院があるが、考えは

回答

在宅医療を行っている医師。実際医師が不足している。1、交代要員がほしい
患者さんの距離が遠く、効率が悪い。地方も対応できるように支援策を考えたい

質問

2026年問題、難しい課題が山積みしている。

回答

問題を話し合って検討してほしい

国会研修の要旨

来年度予算の骨格に関する説明があり、さらなる災害復旧の必要性を確認
災害を完全防止の立場から、減災の方向へシフト、さらに各省庁連携の必要性を今後
進める必要性を確認。単独省庁に限らない方策も含め検討を進める
僻地医療の確保策と医師の偏在の課題など、画一的な指針から、地方の特性を生かした
施策推進を強く希望した

令和2年1月17日 NTTドコモ本社

NTTドコモ本社 5Gについて

山田代表より挨拶

NTT 川田氏より挨拶

NTT ショールームで体験

オンデマンド交通システム

人口推計予測(リアルタイム)2時間後のデータ予測

観光や受胎予測に活用できる

5Gを使用することで双方向学習システムを利用

会議室で意見交換

5Gを活用した2共創の提案

資料により説明

観光面に利用例(映像が主力)

- 1 ポスターなどの広報媒体から、バーチャル体験型が可能
- 2 疑似体験から参加型の意向が可能

医療の利用

- 1 遠隔地からの医療指導、アドバイス
- 2 遠隔診療などに利用

防災対策

- 1 ドローン等情報収集の方法と分析に
- 2 情報の分析と専門官とリアルタイムで対応策を関東可能

農業の利用策

- 1 ブドウなど繊細な育苗の分析に利用
- 2 生產品の映像から分析(高解像度)専門家のアドバイス
- 3 遠隔地の圃場管理に機械化を図る(センサー)利用
- 4 畜産関係はすでに実用化、センサーとスマートホンの連携

質疑応答

Q,イノシシ対応策は

A,すでに対応している。モバイルの特性を利用する

Q,5Gの利用範囲は

A,今後拡大していくが、端末については、順次発売

5Gの未来志向について議論、意見交換ができた